

政治と経済

このセクションは先のセクションほど気楽な話ではない。というのも往々にして政治と経済は明るい話題ではないからだ。政治と経済が発する気の滅入るメッセージを私たちは無視したがるものだが、政治と経済は私たちの生活のあらゆる部分に影響を及ぼしている。アメリカ合衆国発のニュースがあまりにも憂鬱な理由の1つは、アメリカが多くの点で分断されているように見えることにある。例えば、共和党員と民主党員、トランプ支持者とトランプ嫌悪者、貧乏人と大金持ち、大手多国籍企業と消費者、気候変動（地球温暖化）を信じる者と否定する者、銃を愛好する者と銃の禁止を求める者である。アメリカ英語の新語や文句はこうしたグループ、殊に選挙政治、巨大企業、銃をめぐる政治的な働きかけに由来する。

アメリカは相容れない2つの政治的なグループに分裂してしまった。先の大統領選挙では、ドナルド・トランプがこの分裂を利用して勝利した。選挙結果が入るたびに、50の各州は青か赤のどちらかの色で塗り分けられた。赤は共和党のドナルド・トランプが、青は民主党のヒラリー・クリントンがその州で勝利したことを意味した。そこにははっきりとした分布の形があった。**レッド・ステイツ**（red states [赤く塗り分けられた州]）はほとんどがアメリカの中央部にあり、**ブルー・ステイツ**（blue states [青く塗り分けられた州]）は主に東西両海岸にあった。合衆国の大都市は西海岸と東海岸の北部にあり、大都市の住人は教育水準が高く、自由主義的な傾向がある。合衆国中央部と南部の州は人口が少ない。これらの州の住人は教育水準があまり高くなく、保守的な傾向がある。ドナルド・トランプは、異なる人種、異なる宗教を持つ人々、来たばかりの移民について不安に思っている人たちに訴えかける際に、先に挙げた差異を際立たせて見せた。彼は選挙遊説で、人種・宗教の異なる人々や移民に対して差別的な感情を持つことに問題はないとした。トランプ陣営の選挙運動は、ステファン・バノンという**オルトライト**（alt-right [オルタナ右翼]）（主流派とは別の右派勢力 [alternative right]）という単語を英語の一部にした男が企てた戦略を採用した。オルタナ右翼の思想家たちは白人至上主義や白人独立国家主義をはばかることなく提唱する。白人至上主義とは、あらゆる点において、特に知性、リーダーシップ、道徳において他の人種よりも優れているのが白人であるという考え方をいう。合衆国では、白人至上主義とは白人が各州の人口の大多数を占めるべきだということの意味するが、ニュー・メキシコ、テキサス、ネバダ、ハワイの各州では白人は多数派ではなくなってしまう。オルタナ右翼的な考えはトランプ大統領の「**ボーダー・ウォール**（border wall [国境の壁]）」や移民政策に関係しており、彼が人種差別主義者に

よる暴力に対して糾弾しなかったのも、ハイチやエルサルバドルや一部のアフリカのような国々を「**シットホール・カントリー** (shithole country [肥溜め同然の国])」呼ばわりしたのも、そのことが原因である。今日では、トランプ支持派と反トランプ派とは互いにほとんど口をきくことはない。合衆国議会両院の議員を選出する 2018 年の中間選挙は、この分裂の溝がいかに深いかを示すことになるかもしれない。

また、合衆国は現在、「大手」と呼ばれるいかなる企業に対しても疑いの目を向ける人たちとそれ以外の人たちとに分断されてもいる。「大手」は石油、製薬、農業関連の企業に付けられてきた。「**ビッグ・オイル** (big oil [大手石油会社])」という単語は、BP (ブリティッシュ・ペトロリアム)、シェブロン、エクソンモービルを含む、石油生産を事業とする最大の多国籍公社を意味する。これらの企業は長期にわたって石油の燃焼が気候変動の原因であることを否定していた。さらに、大手石油会社の中には**フラッキング** (fracking) (掘削する際の水圧破碎 [hydraulic fracturing])、つまり合衆国とカナダの地中から石油を取り出す過程に関わっている会社もある。この採掘過程は採掘現場の地下水汚染の原因とされている。また別の「大手」とは「**ビッグ・ファーマ** (big pharma)」、つまりメルク、ファイザー、バイエルといったよく聞く名前の会社を含む、世界最大の製薬会社である。これらの企業は医師たちに賄賂を渡して自社の薬を処方させ、莫大な利益を上げる一方で、アメリカ国内で**オピオイド・エピデミック** (opioid epidemic [合成麻酔薬濫用の蔓延]) を引き起こし、その活動が非難を浴びている。こうした問題のうち、オピオイド・エピデミック (合成麻酔薬濫用の蔓延) は最近ニュースになっている。オピオイド (合成麻酔薬) は処方箋の必要な鎮痛剤で、モルヒネやヘロインと同じような作用があり、同様の中毒性を有する。オピオイドにはモルヒネやヘロインと同じ陶酔効果があるので、すでに処方箋のない者たちはネット上で違法に購入するかもしれない。合衆国には現在、世界最多のオピオイド中毒患者がいる。最後は、「**ビッグ・アグリ** (big agri)」である。これは小麦、大豆、トウモロコシを生産する巨大農場を経営する企業を意味する。この産業が責任を問われてきたことの 1 つは、合衆国中に肥満の蔓延を引き起こしたことである。その犯人は何だろうか。その悪辣漢は**ハイ・フラクトース・コーン・シロップ** (high fructose corn syrup [高果糖コーンシロップ]) (**HFCS**) である。その名前が示すように、この食品甘味料はトウモロコシから作られ、砂糖と同様にショ糖と果糖が半々である。しかしながら、とても費用対効果が高いため、コカ・コーラ、ペプシ、ゲータレード (スポーツドリンクの一種)、アイスティーのような清涼飲料の甘味料としてほぼ完全に砂糖にとって代わってしまった。また、HFCS のおかげで、クッキー、スナック類、パン、缶詰の果物、サラダのドレッシング、シリアル、ジャム、アイスクリームのような多くの加工食品の生産費用を抑え、より栄養価の高い果物、野菜、肉よりも低価格にすることができる。専門家によると、人間の身体は断じてアメリカ人が摂取するほどにショ糖や果糖を大量に必要としない。加えて、肥満が原因で糖尿病や高血圧になる可能性がある。

また別のアメリカ社会の分断は、銃器所持支持者と銃器規制支持者との間にある。銃器所持支持者は、合衆国憲法修正第2条が個人の銃器の所有する権利を保証していると言いき、反対派は人を殺すためだけに使われる銃器を一般市民が所有する権利はないと言っている。この論争があるために、あらゆる人が**アソルト・ウェポン** (assault weapon [攻撃用武器])、つまり引き金が引かれるたびに弾丸が発射される半自動式の銃という新たな言葉を知っている。半自動式の銃は銃弾が**マガジン** (magazines [弾倉]) に簡単に装填されるので、戦闘状態には向いている。この種の武器は1994年から2004年の10年間は所持することが禁じられていたが、現在では18歳以上であれば誰でも購入することができる。合衆国で最も一般的な攻撃用武器は**AR-15** といい、今年の2月にフロリダの高校で17人を殺害した殺人犯が使用したものだ。58名が殺害された2017年9月のラスベガスの銃撃事件の犯人の部屋でも、数丁のAR-15が見つかっている。ラスベガスの殺人犯が使った別の製品は**バンプ・ストック** (bump stock [銃の連射装置]) で、これは、攻撃用武器が戦争映画で見かける機関銃のように矢継ぎ早に弾丸を発射することを可能にする装置である。銃器規制支持者は、攻撃用武器とバンプ・ストックを非合法化する法案が可決されることを望んでおり、両グループ間での熾烈な議論はしばらく収まることはないだろう。

(次回へ続く)